



「住みよさランキング2020」全国1位について取材を受けました
(北陸朝日放送 中田 絢子 氏(左)と粟市長)

ごあいさつ

令和2年7月3日

7月に入りました。

「新しい生活様式」を取り入れ、再開した日常生活も1か月が経ちました。市内を歩きますと、子どもたちが元気に登校する姿や、それを見守る地域の皆さん、休日には親子連れで遊ぶ微笑ましい光景に、ようやく訪れた「あるべき日常」に出会うことができます。

県内での新規感染者数に収まりが見られる一方で、東京などでは日によって感染者数が増え、不安な状況が今も続いています。

各地で賑わいが戻りつつあるなか、「新しい生活様式」として取り入れてきた感染予防の意識と行動をこれからもしっかりと続けていきたいものです。

アジサイが清楚に咲き誇る梅雨の季節は、農作物の豊かな恵みをもたらしてくれる一方で、突然の局地的な豪雨で、河川の氾濫や浸水といった災害を引き起こすことがあります。本市でも、豪雨災害や地震発生時には拠点避難所を開設いたしますが、これからは新型コロナウイルス感染症の予防対策を視野に入れ、避難所における感染の拡大や、クラスター化の防止対策が必要となります。

その対応として、この度「新型コロナウイルス感染症避難所マニュアル」を策定しました。このマニュアルでは、避難所に人が集中しないよう、拠点避難所以外にも予備避難所の開設や、安全が確保された親戚・知人宅への避難、自宅での在宅避難など、「分散避難」の考え方を取り入れています。

—自分の身は自分で守る— 月並みな言葉かもしれませんが、まずは自分の命を守ることがいちばん大切です。

2月以降、明るい話題をお届けできませんでしたが、久しぶりに嬉しいお知らせをいただきましたので報告させていただきます。

東洋経済新報社が毎年公表する「住みよさランキング2020」において、本市が全国1位となりました。このランキングは、全国812の市区ごとに“住みよさ”を表す指標を算出し、総合評価として順位付けしているものです。2011年の市制施行以来、2位を最高に、何度かトップ10入りをさせていただきましたが、お陰様でようやく今年は1位の評価をいただきました。

ニュースを聞いたときは、びっくりして信じられませんでした。市民の皆さんの喜びの声や、さまざまな取材を受ける中で、日増しに全国1位という実感が湧いてきます。大変ありがたい結果ではありますが、大切なのは、これからも本市にお住まいの皆さんが、さらに「住みやすい」「住んでよかった」と感じていただけることです。

野々市の歴史を創ってこられた先人たちへの感謝、そして、市制施行時のまちづくりに対する「初心」を忘れることなく、市民の皆さんが誇りと愛着を持っていただける「これからの野々市」を創ってまいりたいと思っております。